

9 . 河道特性

沙流川は、日高山脈の北端近くに源を発し、ほぼ南西に流路をとりながら芽室岳(1,754m)、ルベシベ山(1,740m)、チロ口岳(1,880m)、ピハイ口岳(1,917m)等に源を発するウエンザル川、ペンケヌシ川、千呂露川を合流して、日高町に至る。さらに戸蔦別岳(1,960m)、幌尻岳(2,052m)に源を発する額平川等の支川を合わせながら平取町を経て、門別町富川で太平洋に注ぐ幹川流路延長 104km、流域面積 1,345km²の一级河川である。

上流部(岩知志ダム上流)

上流部は、日高山脈が日高造山運動の時代に概成された標高 600m 以上の大起伏山地で、山腹斜面は急峻な満壮年期的な地形をしており、標高 1,600m 以上の山腹にはカーレル地形が発達している。これより下流は、標高 200 ~ 600m 程度の中小起伏山地で、河川沿いに砂礫台地が広がる。河床勾配は 1/130 ~ 1/50 程度と急勾配である。

中流部(岩知志ダム~二風谷ダム)

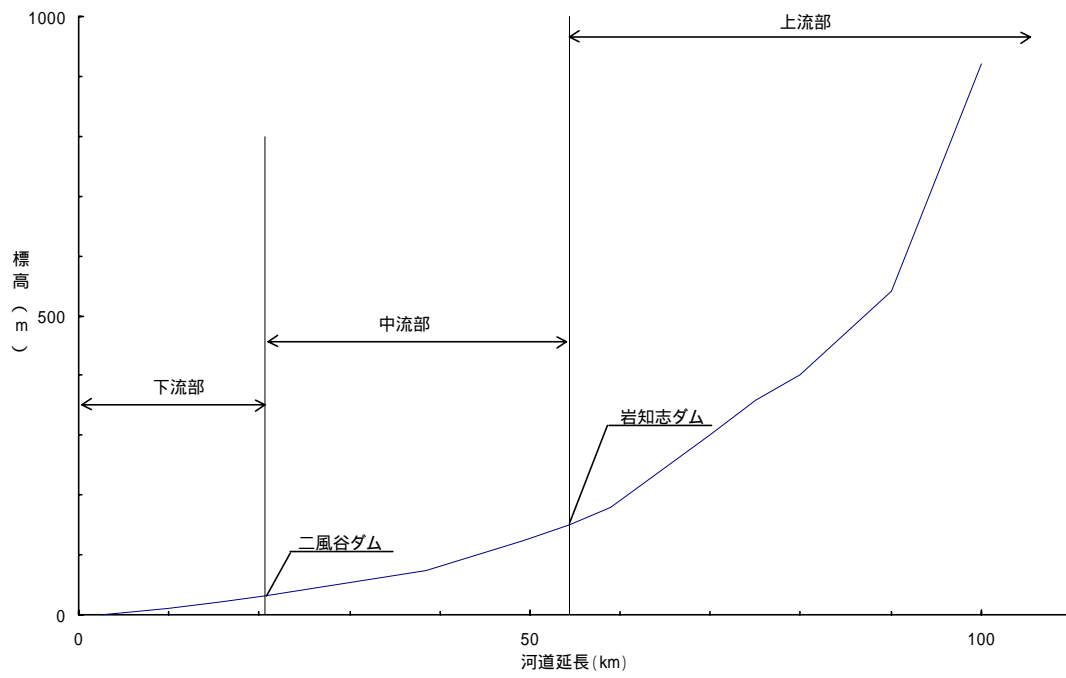
中流部はおおよそ標高 200 ~ 400m の小起伏山地で、河岸段丘の発達が顕著な晩壮年期的地形を示している。河床勾配は 1/190 程度である。

下流部(二風谷ダム下流)

下流部は、標高 100m 以下で、河岸段丘も見られ、平取本町から下流部には沖積平地の発達もみられるようになり、晩壮年期、老年期的地形を示す。河口までの勾配が 1/500 ~ 1/800 程度と急流で、ほぼ一定勾配の沖積地河川である。河道は経年的に浸食傾向を示しており、河床低下が進行している。

河道形状は、高水敷の狭い複断面河道が多く、網状河道が形成されている箇所もみられる。低水路は、堤間内で大きく蛇行しており、砂州の形成区間では経年的な低水路位置の移動が著しい。

低水路河床の粒径は、二風谷ダムから河口まで平均粒径 10 ~ 30mm 程度であり縦断的な変化はほとんどみられない。経年的な粒径の変化もほとんどみられない。



河床勾配	1/700	1/190	1/130	1/50
------	-------	-------	-------	------

図 9-1 沙流川河床高縦断図